

# MIC

## 情報通信 vol.22

(2008年10月発行)

**MOODY**  
INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・  
サーティフィケーション株式会社

大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14  
住友生命新大阪北ビル13F  
Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ  
(<http://www.moodygroup.co.jp>)でご覧頂けます。

## CONTENTS

### 1 情熱という経営資源

### 2 特集

### 3 内部監査の有効性を考える」

内部監査の有効性  
付録 - 内部監査員の力量

### 4 MIニュース

ISO9001:2008追補改訂情報  
英皇太子夫妻 温室効果ガス 18%削減  
MI中国 食品安全研修で北京五輪に貢献  
Q & A

### 5 審査の現場から

お客様紹介  
(株式会社こばやし)  
連載よみもの  
「審査員の心理」

### 6 連載よみもの

MIのリーエッセイ  
「再現性を意識して」  
(審査員 小谷 友二)  
環境よみもの  
「環境と ISO14001」

### 7 お客様からのお便り

地域金融機関としてお客様の満足向上を  
目指して」  
(大福信用金庫)  
「ファッションの最先端は エコロハス エシ  
カル？」  
(プランニングオフィス・ラグーン有限公司)

### 8 研修コースのご案内

Information< ISO27001情報 >  
コースのご紹介 受講生からのお便り

## 情熱という経営資源

営業部 部長 重田 孝次

お客様を訪問すると、経営者の方から会社の歴史を聞くことがあります。創業当時の苦労や喜び、現在に至るまでに幾度となく経験した苦難、それを乗り越えるための判断や努力などは現実のものであり、お話を伺っているとその当時の活力(情熱)が伝わってきます。

組織が経験した創業の苦労や現在に至るまでの苦難は多様であり、それを乗り越えるための正しい方法がどこかに存在するわけではありません。他の組織の似たような経験や判断を参考にすることは大事なことです。組織によつての将来像や組織の文化、理念、組織を形成する人の人格、環境なども違うように、組織も私たち人間同様全て違った人格ですので、他の組織と同じ活動をして同じ結果を得る事はできないでしょう。

苦難を乗り越えるには過去の経験や知識などを踏まえ、その中で解決できる可能性を探りながら場面を乗り越えようとする情熱が大きな役割を果たすことがあります。

マネジメントシステムについても他の組織の工夫された事例は参考にはなりませんが、そのままコピーしただけでは同じ効果は得ることは出来ません。マネジメントシステムを工夫して有効に活用している組織にはのびのびと情熱を持って活動している方が多くいらっしゃるように感じます。

事業資本、知的資本のほか、社員の情熱や感情を経営資源とみる概念があります。知識により「何かはできる」、情熱により「何かをできるようにする」ということでしょうか。マネジメントは社員の情熱ややる気を引き出し発揮できる環境を提供し、社員は会社に対する誇りや信頼を持ち自主的に活動できることが組織と社員を強く結びつけるひとつの要素かもしれません。

Moodyは情熱を持ってお客様の期待に応えられるサービスを提供していきますので、今後ともよろしくご厚意申し上げます。

# 内部監査の有効性を考える

- 効果的活用でシステム改善を -

システムを効果的に運用するために内部監査の果たす役割は重要です。内部監査の目的が認識されないまま、マンネリ化した監査を行っていても単なる記録の維持に留まりかねません。適合性の確認に加え、『有効性』という観点で課題や問題点を見つけ、改善につなげていくという意識が必要です。今回は内部監査の有効性について、その中心となる内部監査員に焦点をあてた考察と、監査員の力量について取り上げました。システム活性化への新たな発見、見直しのヒントになれば幸いです。



## 内部監査の有効性

MC審査員 / 研修講師 和田 浩志

### はじめに

ISOシリーズが日本に上陸して久しい年月が経ちました。特に ISO 9001に関しては、今年秋に改定の予定です。そこで、ISOマネジメントシステム独特の考えである『内部監査』についてのお話をさせていただきます。

### 内部監査で仕組みを改善

日本で『監査』という言葉を聞くと、悪いところを指摘されそうとか、個人攻撃されそう、あるいは人事評価に使われそうといったマイナスのイメージがあるようです。しかし、ISOにおける内部監査は少し意味が違います。

ISOではQMSとかEMSといった言葉が出てきます。これらは『その会社独自の仕組み』という意味であることは皆さんご存じでしょう。ならば、ISOにおける内部監査を別な言い方をすれば、『社内における業務のプロである内部監査員が他部署の業務のプロを監査する』ことであり、その目的は『仕組みの改善』にあります。従って、不適合を出すということは単なる手段であり、目的ではないのです。不適合を指摘するということは、改善のネタを拾うこととお考えください。また、『内部監査をして不適合を出せばやがて不適合は出なくなる』という考えも間違っています。不適合を出して是正処置を取れば自社の仕組みのステージが上がるわけです。ステージが上がれば視座が変わり新たな局面を迎えるわけですから、今までとは違う不適合が出てくるということになります。改善活動はエンドレスです。

### 内部監査員のレベルアップで有効性アップを

では、内部監査の有効性を上げるためには何が効果的でしょうか？さまざまな答えがあります。その一つに内部監査員のレベルアップがあげられるでしょう。まずは社内もしくは社外で内部監査員教育を施し、内部監査員を育成する。そして内部監査を実施する。それはどの企業も行っておられるでしょう。問題はそこです。多くの教育機関では内部監査員教育は内部監査員のスタートコースであると捉えています。いわば自動車の免許取得と似ており、免許を取ってからは運転の力量をあげる実務（実際に自動車を運転すること）が必要になります。内部監査も同じで、教育を受けたら果敢に内部監査にチャレンジしてください。やればやるほど監査員としての力量が上がってくるのが分かります。また、内部監査員の力量には様々なものがあります。その中でも『個人的特質』が入っております。個人的特質は自分の弱点に気づいて、自分で変えようと努力しないと変わらない部分です。この部分の詳細については ISO 19011 (品質及び/又は環境マネジメントシステム監査のための指針 次ページ抜粋)をご参照ください。



和田 浩志 (わだ ひろし)

商業サービス、食品、レストラン、建設業での ISO 900 審査を中心に活動。2004年より全国各地でのMC主催内部監査員、審査員コースの講師としても活躍。

最後に、内部監査員教育を受ける場合、受講前に ISO 9001 / ISO 14001 規格を何回も読み、規格要求事項の内容を把握しておいてください。会社で

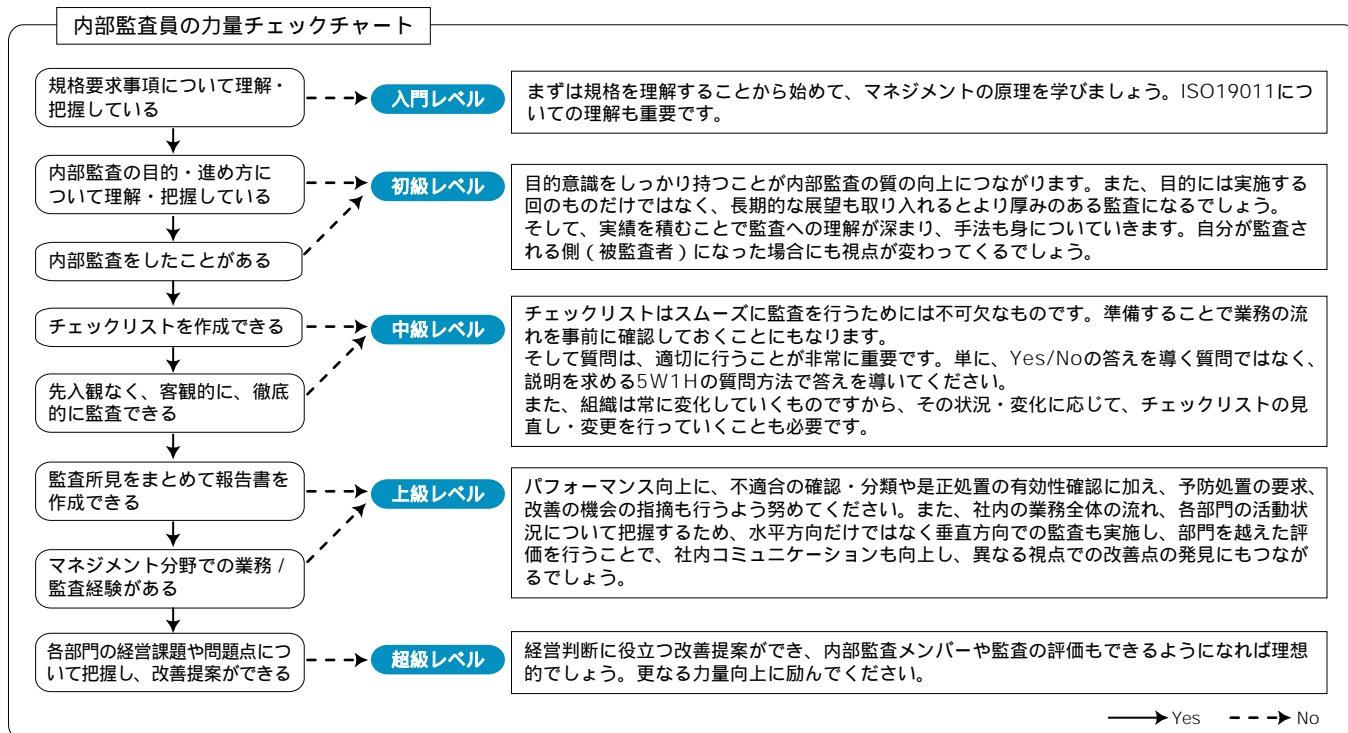
金をかけて内部監査員を養成するわけですから、受講する立場としてはそれをチャンスと捉え、最高の教育効果を得てほしいと思います。

付録資料

## 内部監査員の力量

編集部

内部監査員の力量チェックチャート



内部監査の有効性を高めるには、経営層の認識、被監査部門の参加意識の向上が必要になりますが、それに加え、上述本文にあるように内部監査員の力量の向上も重要な項目のひとつです。レベルアップはしたいがどこから始めたらいいのかわからない、どこが不足しているのかわからないという方のために、知識・技能、経験分野における力量評価項目の一例を挙げました。スキル診断の目安・参考としてご利用ください。尚、実際の評価には監査時での確認も必要になり、他にも多くの評価項目がありますので、これらが全ての状況に適用されるものではありません。また、個人的特質に関しては、ISO 19011より該当項を以下に抜粋していますのでご参照ください。

内部監査は、監査側も被監査側も同じ会社のメンバーであり、「自分たちのシステムを改善する」という目的意識を持つことが改善のカギになります。導入期には、受審準備として、適合性評価に重点を置くこととなりますが、システムが定着してくれば、改善の必要性がないかどうかを評価する監査へ移行していくべきで、それがパフォーマンス改善にもつながります。また、内部監査員を増員して相互に監査するシステムを導入したり、監査後、監査員同士がディスカッションすることで、力量・レベルアップにつなげることもできるでしょう。内部監査は、「改善のためのツール」という意識を持ち、社員全体でしっかり取り組むことでシステム全体の改善に活かして頂ければと思います。

### 7.2 個人的特質

監査員は、第 4 章に示す監査の原則に従って行動できるような個人的特質を備えていることが望ましい。  
監査員は、次のようであることが望ましい。

- a) 倫理的である。すなわち、公正である、信用できる、誠実である、正直である、そして分別がある。
- b) 心が広い。すなわち、別の考えかた又は視点を進んで考慮する。

- c) 外交的である。すなわち、目的を達成するように人と上手に接する。
- d) 観察力がある。すなわち、物理的な周囲の状況及び活動を積極的に意識する。
- e) 知覚が鋭い。すなわち、状況を直感的に認知し、理解できる。
- f) 適応性がある。すなわち、異なる状況に容易に合わせる。

- g) 粘り強い。すなわち、根気があり、目的の達成に集中する。
- h) 決断力がある。すなわち、論理的な思考及び分析に基づいて、時宜を得た結論に到達する。
- i) 自立的である。すなわち、他人と効果的なやりとりをしながらも独立して行動し、役割を果たす。

(ISO 19011 7.2項抜粋)



## ISO9001 2008追補改訂情報

現在改訂が進められている ISO9001は、5月にセルビアの ヴァイサトにて開催された ISO/TC176総会にて最終国際規格原案 (FDIS) の最終ドラフトの作成・検討が行われ、最終段階に入っています。ISO/TC176とは、ISO9000シリーズ規格を審議する専門委員会のことです。ISO規格は5年ごとに見直しが行われ、今回の ISO9001については、要求事項の明確化、規格解釈の明確化、ISO14001との整合性向上を目的に、大きな変更ではなく追補として改訂作業が進められています。

現在世界で100万以上の認証件数となっている ISO9001は、1987年に初版が発行され今回の改訂で4版目となります。前回

2000年の改訂では追加要求事項や顧客重視の向上など大きな改訂となりましたが、今回は、全体の改訂見直しというよりはむしろ微調整となり、要求事項の追加や要求事項の趣旨に変更はありません。

また、総会期間中には、初版発行から20年という大きな節目を迎えたことを祝い、式典も行われました。今後、8月に発行された FDIS の投票後、11月頃には追補版が発行される予定になっています。詳細等につきましては、ISO/TC176/SC20のHPをご参照ください (<http://isotc.iso.org/livelink/livelink/fetch/2000/2122/138402/755901/1069636/Activities.htm?nodeid=3554104&vernum=0>)。

## 英皇太子夫妻 温室効果ガス昨年比 18%削減

英皇太子公邸クラレンス・ハウスは6月、昨年度の年次報告 (2007年4月～2008年3月) を発表しました。報告書によると、チャールズ皇太子夫妻が昨年度王室の活動などを通じて排出した二酸化炭素は2,795トンを、前年度比18.4%の削減でした。

チャールズ皇太子は環境問題に取り組んでいることも知られ、私邸領地では有機栽培を行い、オーガニック食品のブランド「ダッチ・オリジナルズ (Duchy Origins)」を設立、人気ブランドとなっています。

2006年度の年次報告書で初めて、二酸化炭素排出量と削減目標を公表した皇太子夫妻は、グリーン電力への切替えや、専用ジェツ

ト機・ヘリコプターの利用を減らして一般の飛行機や自動車の利用を増やすなど、積極的に取り組まれています。また、所有するジャガー、アウディ、レンジローバーなどの高級車を使用済み食用油を原料とするバイオディーゼル仕様に改造し、更に最近、愛車のアストマーチン余剰ワインなどが原料のバイオ燃料対応車に改造しています。

今後2012年までには、当初予定の目標値12.5%より更に高く2007年度比25%の削減を目指されるとのことで、ますます注目が集まりそうです。年次報告の詳細は、チャールズ皇太子の公式サイトで公表されています (<http://www.princeofwales.gov.uk/>)。

## MIC中国 食品安全研修で北京五輪に貢献

今年8月に開催された北京五輪は、200以上の国と地域から約1万人の選手が参加した最大規模の大会として盛大に閉幕しました。開催にあたり、北京市では各界からの食品に対する安全性への懸念に対応するため、管理体制を強化し、食品安全衛生管理プログラムの一環として研修プログラムも昨年より行われていました。このプログラムの計画策定、導入運用に向け、MIC中国では、昨年6月より、食品安全の技術顧問として北京食品安全衛生監督署への支援協力を行い、その後、研修機関としては初めて政府

機関より認定を受けました。

昨年10月に開始した研修プログラムは、まず北京五輪でサービスを行う飲食店、ケータリング業者の食品安全管理者を優先対象として進められ、60以上のコースで1,500人以上の方に受講頂きました。北京では現在、食品安全管理の研修・資格は、食品安全許可証を取得するための必須条件となっており、今後2年間で50,000軒以上の飲食店及び100,000人以上の食品安全管理者が対象となる見込みです。

## Q&A ?



Q

最近、食品偽装問題や商品の欠陥隠しなど企業の不祥事や事故が相次ぎ、CSRに取り組んでいる企業も増えてきていると聞きました。先日、取引先より当社のCSRについて質問を受けたものの、答えることができず恥ずかしい思いをしました。CSRとは、ISOのようなものなのでしょうか？

### Answer

CSR (Corporate Social Responsibility) とは、一般に企業の社会的責任と言われるもので、「企業は利潤を追求するだけでなく、社会の一員としてふさわしい責任を果たさなければならない」という考え方です。ただ、CSRには明確な定義や範囲付けが難しく、例えば、ISO9001は顧客満足を目的とした規格ですが、CSRは利害関係者を対象とするためにより広範囲になります。2001年より国際規格化への議論が高まる中、作業が進められましたが難航し、現在、ISO26000-SR (社会的責任は企業のみが担うもの

ではないため「C (Corporate)」を取ることになった) として、審査登録制度 (第三者認証) を伴わない指針 (ガイダンス) 規格として作業が進められています。

また、ISO14001はご存知のように環境に関する規格ですが、広く社会貢献・環境保全という意味で、CSRの観点から環境問題に取り組み、ISO14001を導入する組織もあり、取得組織を対象に融資金利の優遇制度を導入している金融機関もあります。CSRは今後ますます企業活動の展開には欠かせないものになってくるでしょう。

株式会社こばやし様は、杜の都仙台にて創業 88年を迎えられ、駅弁を始めとする各種弁当、料理、お惣菜の製造販売を営まれています。もともとHACCPに近い工程管理を実施されていましたが、標準化の徹底に向け、食品衛生、廃棄物を管理するためにEMSの導入を決められ、平成 15年に東北地方で業界初となる ISO 14001を取得されました。

同社では、品質 環境 地域への3つの「こだわり」を柱として、「安全で衛生的な商品をお客様へお届けする」ということを心がけておられます。その一つ、環境への「こだわり」としては、廃棄物のリサイクル化（昨年実績 93%）、排水をプラントで分解する除外設備の導入、仙台市環境配慮型事業所認定（10万人のごみ減量大作戦）温暖化対策として本社屋上への中庭設置など、積極的に取り組まれておられ、この屋上緑化は、仙台市の「建物等緑化助成制度」の適用第 1号を受けられました。更に今年は、年間 30000m<sup>3</sup>の地下水を掘削し業務利用する計画を進められています。また、同社の本社・工場は、仙台市の「ひとこやさしいまちづくり条例」に適合するバリアフリー設計として、適合証交付建築物となっています。



左 大正 9年（1920年）創業時の店舗



右 本社・工場・仙台市宮城野区（ひとこやさしいまちづくり条例適合証交付建築物）

10月より 仙台・宮城デスティネーションキャンペーン「美味しい国、伊達な旅」が開催されるとのことで、その開催に合わせて販売されている「宮城まるごと弁当」は、仙台方面へ向かう審査員にも好評です。今年は 2度の地震に見舞われましたが、復旧も進み、秋の観光シーズンに向け、名物「網焼き牛たん弁当」を中心にいつも通り安全で衛生的な商品をお客様へお届けできるよう取り組まれています。仙台へお越しの際など、一度チェックされてみてはいかがでしょうか。

<http://www.kobayashibento.com/>

審査員の

心理

第 8回

「是正・予防処置」

連載読み物

MC Loyalty部 部長 成毛 秀雄 Hideo Naruke

是正・予防処置はいうまでもなく、継続的改善を促す根源ともいえるもので、審査員は改善の糸口となる是正処置について大きな関心を持っています。効果的な是正処置とは、その処置がシステムにフィードバックされ、システムの中の別の要素とリンクし、同じ問題の発生を効果的に防止します。「ある問題点が発見され、なぜそれが発生したかを考え、その原因を取り除く処置をとり、その処置がうまくはたらいっているかどうかをさらに確認する」というのが、是正処置の考え方です。まず、問題が発生したということを認識することからスタートします。

問題点の発見 - 原因の検討 - 是正処置の検討  
- 是正処置の実施 - 効果の確認

これが、是正処置プロセスのフローといえますが、これらを教科書的に一枚の書式に盛りこみすぎると実際の使用において大きな負荷となることがあります。立派な書式だが、ダイナミックな運用ができるのだろうか、審査員はふと考えます。

このフローの目的は改善です。規格要求事項のための是正処置ではなく、組織のシステムの改善、あるいは、組織の

システムをより豊かにしていくのが目的です。上述した「是正処置の検討」とは効果的な方法を考えるということです。この効果的な方法とは、システムの中の要素（組織、製造工程、設備、検査、文書、記録、教育訓練、内部コミュニケーション、内部監査など）と関係づけることにより、システム内の改善に結びつきやすくなります。是正処置を担当する人の腕のみせどころです。是正の方法を検討するときに、システム全体の見取り図を頭の中に描き、問題点はその見取り図のどこで発生したのか、その問題点はシステムのどこに関連し、つながっているのか、その連鎖として是正処置はシステムのどこをどのように動かすのか。

是正・予防処置は、規格の 8.5.2 8.5.3で完結するものではなく、システム他の様々な要素につながります。審査員がこの部分を審査するときに頭の中にシステムの見取り図をイメージとして描き、審査するに従い、相手方も同じようなイメージを描くようになった状態で審査員と相手方のコミュニケーションが円滑に進むと是正・予防処置の審査はきわめて有効性を帯びてきます。



## MICリーエッセイ

審査員からのエッセイをお楽しみください。



From 東京都大田区  
小谷 友二  
(こだに ゆうじ)



## PROFILE

専門分野 ISO 9001 - 建設業、設計開発、プロジェクトマネジメント 介護 福祉サービス  
経歴 株式会社青木建設、株式会社システムズ

## 「再現性を意識して」

今までに数百の会社・組織を訪問し、多数の人達と話し、様々な問題・課題を見せて頂きました。審査では限られた時間の中で、運用の適合性を検証し、顧客に対して有益な指摘を探り出し、それをまた時間内にまとめ説明する。これの繰返しは思った以上に「脳」を活性化させるようで、審査を通じて「付加価値」をもたらされたのは審査員であった、という

ちょっと困ったことを実感しております。審査における「付加価値」として現在意識していることは、「再現性」です。ここでいう「再現性」とは、同じ「インプット」(入力)であれば、同じ「アウトプット」(出力)が求められる、あるいは起こると考えてください。科学的な正式な定義はよく分かりません。求められる出力 期待される結果・成

果など)に結びつくためには、どのような入力(要件・環境・仕組み・要員・情報・意識・能力・設備など)が必要なのか。再現できない場合はどの入力が不足していたのか、再現したくない場合はどの入力を変更、あるいは削除すべきか。こんな見方で審査を進めております。やっぱり固い話になってしまいました。次の人に期待しましょう。

## 連載 環境と ISO14001

## 第2回 「資源問題(1)」

MIC環境審査員顧問 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

資源といえば エネルギー資源、食料資源、鉱物資源、そして 水資源がありますが、のエネルギー資源については前回までの「エネルギー問題」の中で言及しているので今回は食料問題についてお話しします。

昨今、トウモロコシや小麦、大豆などの食料資源が高騰し、これがあらゆる加工食品の価格を押し上げ、食料不足を招き、世界中に不安を与えています。ガソリンに添加するエタノールを製造するのにトウモロコシやサトウキビ、小麦が使われたことがきっかけです。これに加えて中国などの東アジアでの食肉需要が増加し、飼料用穀物の需要が増加したこと、異常気象による生産不良、更に米国のサブプライムローン問題で行き場を失った投機マネーが流入したことがこの問題を大きくしました。

バイオエタノールが問題になったのは、原油の高騰を背景に米国の輸出用トウモロコシがそっくり燃料用アルコールの原料に回ってしまい、先進国の車を走らせるために途上国の食卓から食べ物を奪う構図となったこと、しかもそのための政府奨励金が出ていることが批判的になりました。洞爺湖サミットにおいてもバイオ燃料として食料穀物を利用することの功罪が議論されましたが決着はつきませんでした。しかしながら、エネルギー源の多様化の観点からバイオ燃料は重要であり、今後雑草や麦わらなど食料と競合しない原料を用いる「第二世代のバイオ燃料」に注力すべきことが合意されました。そのためには高活性酵素反応技

術や分離膜を用いた水/エタノール分離技術、栽培コストを下げる遺伝子組み換え技術などが重要な要素技術となって急速に展開することが期待されます。

東アジアの食肉需要の急増についてはいかんともしがたく、穀物の自給率を高め、米国依存からの脱却を図るしかありません。低コストの飼料穀物、例えば飼料稲の栽培が必要であり、牛肉1kgを得るのに11kgの穀物を与える現在の畜産のあり方も見直して、草や葉の部分を食べさせることも考慮する必要があります。温暖化による異常気象については不可避なこととして対応策を考える必要があります。基本的には温暖化に対応した品種の選択と節水農法の開発・展開です。既に「コメ高収量システム」と言う節水型高収量稲作技術が日本のNPOの支援で東南アジアに展開しています。

今回、世界を襲った食料問題は「食料安全保障」の考え方を人々に提起し、それぞれ自国の食料確保に走らせるに十分でした。その意味では日本の食料自給率が40%を切っていることとは先進国の中では際立って低いということ、従ってこれを上げることが急務であることを認識する必要があります。もはや、お金の力に任せて食料を買い集める時代は終わりました。活力を失った農業を再生し、自給率を上げていくことで私たちの腹を満たすことはできない時代が来ているのです。農水省は平成22年に自給率49%を目指していますが、

日本の食料自給率(平成17年度)

品目	構成比%	自給率%
米	23.3	95
畜産物	15.4	17(49*)
油脂類	14.3	3
小麦	12.4	13
砂糖類	8.2	34
魚介類	5.3	57
野菜	3.0	76
大豆	3.1	24
果実	2.7	37
その他	12.3	25
計	100**	40

\* 輸入飼料による生産 / \*\* 2,573kcal/人・日  
資料: 農林水産省「食料自給表」

目標が過小なうえ、既得権に縛られ具体的な施策がないことが気になるところです。石油漬け農業(温室栽培、遠方からの輸送産物)から脱皮し、地産地消と旬のものを食す環境配慮の食生活を定着させ、環境保全と一体化した土地利用が重要でしょう。また、農業の担い手としてリタイア世代の活用、農業経営の法人への解禁などの抜本施策がなされねばならないと思います。某民間企業が、野菜などを効率的に栽培するために、発光ダイオードと太陽電池を組み合わせて、液体肥料と温度を制御する農産物生産システム(植物工場)計画を発表しました。食料問題の解決の選択肢の一つとして注目されます。

今回は資源問題その(2)として鉱物資源についてお話しします。



# お客さまからのお便り



## 地域金融機関として お客様の満足向上を目指して

大福信用金庫 (ISO 9001:2000 ISO 27001:2005認証登録)  
企画部 佐々木 淳次

大福信用金庫は、福島区の大阪市中央卸売市場内の仲卸業者の資金調達・運用を円滑に行うことを目的に設立されました。「お客様第一主義」をモットーに市場を中心に「いつでもみぢかでおてつだい」をスローガンに営業しております。

我々の使命は、地域の皆さまからお預りしたご預金を、再びご融資として地域に還元することで、常に地域社会の発展に寄与することです。

当金庫は、2006年に ISO 9001:2000、2007年に ISO 27001:2005を認証取得いたしました。ISO 9001の手法や考え方にに基づき、事務品質の維持、向上により人材育成、内部管理体制の充実を図り、また ISO 27001の考え方にに基づき当金庫の保有する情報資産を適切に取り扱うことで情報セキュリティの強化を図ります。

私たちはお客様に満足して頂ける地域金融機関としての使命感を持ち、その責任を果たして地域の発展に尽くします。



～福ちゃん(左) 大ちゃん(右)～

大福信用金庫がある福島区の区の花にも制定されている地元ゆかりの野田藤(のだふじ)をモチーフにしたキャラクター。

## ファッションの最先端は エコ ロハス エシカル?

プランニングオフィス・ラグーン有限公司 (ISO 14001 2004認証登録)  
代表取締役 浅野 健一

弊社プランニングオフィス・ラグーンはファッションを切り口とした企画・デザインを20年営んでまいりました。ファッションは『その時代を映し出す鏡』と形容されます。パリファッション素材展でエコロジーのテーマが提唱されてからすでに20年が経過いたしました。少し前まではLOHAS(Lifestyles of Health And Sustainability - 健康で持続可能な社会を志向するライフスタイル)と呼ばれ、ここに来て、エシカル(ethical「道徳上の」「倫理的な」)なる言葉も登場してまいりました。『地球に住まい続けるためには』の問いが企業を対象とした活動から、生活者へのアピールへと、広域になってまいりました。CSR活動です。社会的企業としての情報発信をしていかなければならないこの時代に、エコは『義務から企業戦略へ』の一步を踏み出す時が来ました。これまでの工業的なテクノロジーを背景にした、エコ活動は『CO2を減らそう』『エネルギーの消費を抑えよう』といった、消費削減型を強いる『地球環境の危機感をあおるネガティブ活動』が中心でした。しかし、今後も地球市民を続けなければならない私たちにはファッション的、文化的で明るく、楽しい、ポジティブなエコ提案が重要になってきます。

環境 ISO 14001を取得の各企業様におかれましては、

その活動をご家族、ご近所の皆様へ知らせる活動を始められてはいかがでしょうか。意外と足元で知られていないものです。弊社では環境インタープリターによる、子供たちへの『企業・工場 エコ探検隊』の企画・運営を始めました。エコな企業のエコな活動を楽しみ直接体験から学び、感じ、企業を深く理解していただくことを目的としています。お洒落で楽しいCSR活動にご興味のある企業様は是非ご一報くださることを願います。

<http://www.lagoon.co.jp/>



『エコ探検隊』として子供たちとショッピングセンターを探検しているワンシーン



子供向けエコツアー



エコライフフェア 2008

情報化社会である現在、組織がもつ情報はどの企業にとっても重要な資産であり、災害による喪失、情報システムのクラッシュ、外部からの不正アクセスによる改ざん、流失、漏洩、ボットネット等の脅威に常にさらされています。また、社内からの情報漏洩や持ち出しなどの発生も後を絶たず社会問題となっており、各企業では継続的なリスク評価や対策が求められています。このような背景から、2005年にBS7799、ISMSをベースに国際規格化されたのがISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム）です。

情報セキュリティマネジメントシステムの目的は、これらのリスクから情報資産を守り、情報の機密性、完全性、可用性を継続的に確保維持するシステムを確立することにあります。取得によって、取引先やお客へ安心感を与えることで信頼性を高め、企業イメージアップにもつながることにあります。情報資産に対する管理システムの確保、社内での意識改革、対外的な信頼性向上のためにも、取得のご検討をされてはいかがでしょうか？ 取得に関するお問合せ、ご相談など、お気軽に弊社東京営業部までご連絡ください。

尚、今号では、ISO27001取得組織様からのお便りを掲載させて頂いておりますのでご参照ください。次号ではISO27001も含め、MICでの取扱規格についてご紹介させて頂く予定です。

## 研修コースのご案内

### 内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指す組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース 9001・14001・18001 (2日間)

【開催地】 東京・大阪

【対象者】 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定・検討しているシステムをより効果的に運用したい効果的な内部監査を行いたい

### 審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001 : RCA認定審査員研修コース (5日間)

- ISO14001 : RCA認定審査員研修コース (5日間)

【開催地】 東京

【対象者】 審査員の目で内部監査を行いたい内部監査グループのリーダーに任命された将来審査員を目指している

### ～ 受講生からのお便り ～

ISO9001審査員コースを受講して

品質審査員コース (2008年4月) 受講  
協成産業株式会社 ISO推進室 平田 正浩

地元の信用金庫に情報処理・営業部門に30年間勤務、その間に中小企業診断士・情報処理などの多くの資格にチャレンジし知識の習得に努めました。53歳を機に、中小企業診断士としてさらなる知識の習得と実践にと、地元企業に総務部長として勤務させて頂くことになりました。

その後、ISO認証取得のためにISO推進室長に任せられ、ISOの概要は理解しておりましたが、マニュアル作成から実施・教育、関係官庁への届出・法令他調査と、する事全て初めての経験でありましたが社員の協力により2007年7月に本社・本社工場・富田林工場のISO9001・14001を同時認証取得することができました。何とか認証取得したものの、各規格が理解できているとも言えず、今後の全社統合システムに向けて、自分自身の知識が不安であり、今回のコースを受講させて頂くことに致しました。

研修は講義・ケーススタディーを交互に取り入れ、また、成毛・和田講師の実践に即した講義とアドバイスが大変参考になり勉強になりました。規格書が何を要求しているのか、審査員としての力量など5日間ではありましたが、今後のISO推進に大きな知識となりました。7月には本社に加え、広島営業所(900他審査機関から移行)の拡張審査も終わることもできました。早い時期に名古屋支店(他審査機関9001・14001認証済)を拡張し、全社統合システムを完了したい計画です。修了証を頂き、早速、RCAに審査員補の登録を致しました。審査員としての目、社内の推進役として多角的な目で、また、講義でご教授頂いた事を忘れることなく、当社のISO推進に邁進致します。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社  
<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2  
日本橋Nビル 4F

TEL : (03) 3669-7408 FAX : (03) 3669-7410  
E-mail : mi-certification@moodygroup.co.jp



大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原 41-14  
住友生命新大阪北ビル 1F

TEL : (06) 6150-0571 FAX : (06) 6150-0575  
E-mail : mic-osaka@moodygroup.co.jp